



3/3 17年度3年生の最終授業日 とにかく頑張りました！

3/6 入試が終わって塾で自己採点 合格発表を待つ。



3/16 明輝高校合格発表の様子



この日からカウントダウン！



3/24から春期講座、前学年の復習と新学年の予習で



春期講座中も、勉強する湖陵生と高専生。勉強しなきゃ！



今回もたくさんの差入やお土産有難うございました。



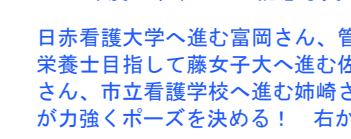
17年度の卒業生との記念写真



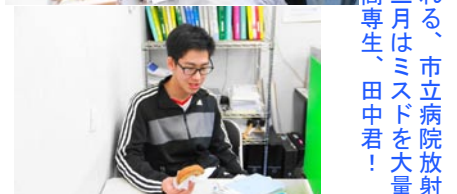
附属小6年生の田中杏奈さんが、見事英検3級に合格しました。見事！



毎月差入れしてくれる、線技師の住川さん、三月はミスドを大量に！うれしそうな高専生、田中君！



日赤看護大学へ進む富岡さん、管理栄養士目指して藤女子大へ進む佐藤さん、市立看護学校へ進む姉崎さんが力強くポーズを決める！ 右から



3/17 今年高校を卒業する生徒とタコ焼きパーティー



札幌医療大の薬学部田村さん、今年高専に入学する村上君と



卒業し大学へ行く斗内君(右)



高専を卒業し富士ゼロックスに就職する佐々木君が卒業証書を。 1年留年しましたが無事卒業し、久しぶりの木村侑里さん。短大卒業後札幌で就職、パワハラで退職



看護師の国家試験に合格した仲村麻由香さん(29)5年かかりました。すごい！

◆ **高校入試全員合格** ◆  
16日の合格発表、今年全員が志望校に合格しました。高校生も進学先、就職先が決まり4月からそれぞれの道へ進みます。  
新しい学年に進級する中学生も高校生もスタートがとて大事です。特に新中3生は、写真にあるように、高校入試の終わった時からカウントダウンを始めもう30日が過ぎていきます。(入試は3月5日)先月も書き込みした15の春、18の春で、ほぼ人生が確定しています。  
格差社会となかなか先行きの見えない世界情勢。アメリカと北朝鮮、韓国と中国、かなり複雑な交錯した関係に、そこに日本がよろよろと絡んでいく。何だか解らない状態になっています。  
ヨーロッパでは、ロシアとイギリスが険悪な状況になってきて、その間でドイツの国内状況も落ち着かない事になっています。  
日本国内では、財務省による公文書の書き換えと言う、民主主義の、法治国家の、絶対にあつてはならない出来事が起きてしまっています。安部内閣の

支持率も回復不能ではないかと思えるような低落気味です。  
国内も世界も自国さえ良ければいい、自分さえよければ良いという殺伐とした空気が漂い、益々混迷を深めています。  
そんな時代を生きて行かなければならない皆は、さらに人間力を磨いていく必要があります。人間力こそが生きていくための原動力です。  
過保護、過干渉の環境守られていては社会で通用しないのです。(裏面の記事)  
決まりを、校則を守ることが大事なのではありません。常に、自己判断、自己責任で行動することが出来なくてはこれからの社会では通用しません。そのことは市内の高校と高専を比べるとよく分かります。がんばりがらめの校則で管理され、とりあえず学校に行っていれば卒業できる高校生。  
一方、全く校則がなく守られることのない高専生は進級も卒業も自己責任です。同じ年齢です。どちらが早く大人になっていくのかは高専生を持つ、持ったことのあるお父さん、お母さんはよく分

かると思います。  
高専が企業の評価も高く、求人倍率が高いのは当然のことです。  
社会で生きていくのに必要なこと、守るべきことは規則ではなく、一般常識、モラルの範囲を超えない事です。  
社会に出るまでに必要なことは学力、知識、教養、経験の4つと責任感、正義感を持つことだと思えます。これらを身に付けるために目標に向かって覚悟を決め前に進むことです。  
18年度、塾は覚悟を決めます。ダメな生徒には退塾してもらいます。(今まで以上に厳しく) チェック表というのも復活させます。※忘れ物や、やらなければならないことをやらなければチェックされます。自分だけでなく塾生、皆に迷惑をかけることになりません。当然ですが最終的には退塾になります。(特にサッカー部、バスケット部は要注意)  
**要注意です！お母さん！過保護、過干渉は子供たちのためには何の役にも立ちません。子供の将来をダメにします。**

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日
●振替休日	●昭和の日							●休塾							●休塾						★公立高校入学式	●休塾		●新学期通常授業スタート	●始業式 新学期準備休み	●学力コンクール 3年生	●学力コンクール 1、2年生		
GWの休みはカレンダー通りの予定です。29、30、3～6日																													



じゃーん、髪切りましたよ！古川君と成瀬さん。よく似合っています。

◆ 4月の予定 ◆

◆ **共通テスト英語の民間検定** ◆  
東大の福田裕穂副学長は10日の記者会見で、2020年度に始まる「大学入学共通テスト」の英語で導入される民間検定試験を、入試の合否判定に使わない考えを明らかにした。東大の方針は他大学の対応にも影響を与えそうだ。  
福田副学長は「現時点で入試に用いるのは拙速だ」と述べた。合否は23年度まで併存するマークシート式の共通テストと2次試験の成績で判断することになる。  
民間検定試験を巡っては、それぞれ制度設計が異なり、測れる能力に違いがあるとして、合否判定の際に同一基準で比べることを疑問視する意見が大学関係者の間でも根強い。  
小学校の英語教育に関しても問題ありで、塾でもどう対応するのかを検討中です。

# 衝撃的な「週刊現代」の記事 第2弾

## 「明治大の運動部出身が使えない」 ダメされた！何だ、メンタルも身体も弱いじゃん！

### 一流企業に入社した不幸



「長時間席を外すなら居場所は知らせておいて」大手の損害保険会社の営業課長は、新入社員に会計処理の仕事任せた。だが、ふと目を離すと新人がデスクから消えていた。30分後、戻ってきた新人に課長がどこへ行ってたのかを尋ねると、まだ午前中にもかかわらず外で食事をしていたと答えた。驚いた課長は冒頭のように注意したが、新人は反省する様子もなく、こう言った。「糖質補給は疲れた脳には必須です」脳、疲れてねえだろうという心の叫びをグッと呑みこんだ課長は、終業時間までにはノルマを終わらせるように指示して、自分は外回りに出かけた。ところが翌朝、新人は課長よりも遅く入社してきて、昨日の仕事も終わってない。あげく、「睡眠を十分にとらないと効率的に作業ができません」と艶々と言い放つ……。



この課長は本誌に深くタメ息をついた。「この新人は明治大の名門運動部出身者で、配属前はつべこべ言わずに働くタフなヤツが来ると期待していたのに……」

かつて大学の体育会出身者は、一般学生に比べて根性と体力があるからと一流企業から引っぱりダコが存在だった。その筆頭が明治大学の運動部だ。10年前なら採用のボーダーラインに明治大学の野球部と早稲田大学の一般学生がいた場合、前者が選ばれることが当たり前だった。

今年も明治大野球部の卒業生の就職先は、社会人チームに進まない場合でも、三井住友銀行、電通、JR東日本、SMBC日興証券、日本テレビ、NHK、サントリーなど一流企業が並ぶ。他の体育会OBも、トヨタ自動車や野村證券など軒並み人気企業に入社予定だ。

明治大の体育会は、伝統の野球部、ラグビー部を頂点に、46もの部がある。ラグビー部元監督の故・北島忠治氏が言い続けたスローガン、「前へ」が象徴するように、明治大体育会には「質実剛健」「愚直」のイメージが根強い。だが、ここ数年の間にそうした気質は変わってしまったようだ。企業の人事担当者からは期待を裏切られた」と後悔の声が次々と上がる。

大手ゼネコンの人事担当者が言う。「明治大のある運動部のエースを採用したんです。しかしその部は全国大会で成績を残したわけではなく、学内で知名度があったというだけ。彼は『この会社でもエースになる』と意気込んでいましたが、あっさりと1年ほどで退職しました。理由は『エース扱いをしてくれないから』。あちこちの現場に行かされ、仕事は小間使いばかりで、本人が言うには『ここは自分のいるべき場所じゃない』。そいつに『何がやりたかったのか』と聞くと、『チームのリーダーとして頼りにされたかった』と答えました。下級生のころから注目されて、下積み経験がなかったんですね。いまそういう体育会の若手社員は多い」

かつての明治大の体育会出身者ならば、雑用だろうが、全力で仕事に取り組んだ。彼らのモチベーションの一つは「早慶に負けない」。だが、いまの若手は、学生時代の試合と違って会社の出世競争では彼らに勝てないと感じた途端、心が折れてしまうのだという。

「明治大学〇〇部」の看板板のおかげで一流企業に入社できてしまったこともまた不幸だっただろう。

大手生命保険会社の人事担当者が指摘する。「ここ数年は勤務時間も確実に短くなっています。しかも、ハラスメント防止の点から上司から罵倒されることも減ったはずなのに、若手社員は打たれ弱い。それも体育会系が。先日もある明治大の有力な運動部OBの20代社員が『ちょっとメンタルの調子が悪くて』と欠勤した。時節柄、こっちもちょっと心配してよくよく問いたら、朝起きて、なんか調子が悪ってだけなんですよ。」

近年の明治大体育会学生の弱点はメンタルや身体だけではなかった。大手電機メーカーの営業担当課長が言う。「うちの部署には明治大学の体育会出身者が毎年配属されてきます。

しかしこのところは戦力になってません。挨拶は礼儀正しいので取引先の評判も最初は良いんです。でも、その後のフォローがまったくできない。たとえばお客さまから『この業務を改善するために新しいシステムをつくりたい』といったことを専門用語を使って依頼されたとき、自分の勝手な解釈でまったく違うこと

をやってしまう。要望にピタッと応えられる対応力がない。意味がわからなければ先輩に聞けばいいのですが、なぜか自分からは聞いてきません」それがかつての体育会出身者と決定的に違うのだという。

かつての運動部上がりは、わざと不機嫌にそっぽを向いている「意地悪先輩」相手にも怯むことなく、自分がわかるまで、しつこく何度も質問してきた。「失敗したら自分一人で土下座しに行くという気合があった。しかし、いまの新人は責任を取る意識が非常に薄い。自分のことだけ考えて、あとは周囲が常に面倒を見てくれるという意識なんです。学生時代がそうだったんでしょね。

時代が変わったのか、手厚くバックアップされることに慣れてるんです。」  
(前出の電機メーカー営業担当課長)

中略  
就活ジャーナリスト・石渡嶺司氏が言う。「たしかに体育会出身者に期待が裏切られる面が出てきていると企業から聞くことはありますね。体格は良くても、接すると文化系の学生と大きく変わらない印象です。」

入社した彼らに感じる大きなギャップと言えば、今どきの若者なのにPCのスキルがないことです。ふだんもスマホしか触らないので、ワードやエクセルの基本もわからず、入社後、イチから教えないといけない。一般の学生よりその傾向が強いのと思います。

また、『ハイ』しか言わない体育会系もいます。返事だけで結局課題を解決できず、創意工夫がありません。これが入社2〜3年目ならわかりますが5年目以降も続くので困っている企業の人事担当者がいます。」

中略  
「釧路って何県？」  
いまの体育会学生は、基本的には授業に出席しなければならず、レポート提出や試験も一般学生と変わらない。学力自体はかつてより多少は上がっているかもしれない。明治大の体育会も例外ではないが、それでも取材のなかでOBの珍エピソードはいくつも聞いた。

「漢字の読み書きが怪しい。北海道の釧路に一緒に出張しましたが、彼は『なんと読むのでしょうか、どこの県にある町ですか』と真剣な顔で質問してきた。日本の地理は部活の遠征で行った場所以外は知らないのだと思いますよ。」  
(中堅食品メーカー幹部)

中略  
教育ジャーナリストの木村誠氏が指摘する。「上司から頼みごとをされると、『個人的な用事があるので残業はできません』と独りよがりの自己主張だけをするようになってる。むしろ、学園祭の実行委員を務めた学生のほうが体育会系の学生より企業からの評価は高いそうです。

一般の学生は、読書やバイトでの経験、サークル活動、学園祭などいろんな経験を積んでる人が多い。一方の体育会系の学生は単色です。スポーツメインの生活を送ってきたので、学問の素養が不足しているうえ、コミュニケーション能力も欠如している。今のビジネスは、ルールに従うことだけではなく、ルールを創る独創性がある人材が必要とされています！



### 卒業生のお母さんから

中学校に入学し、1年のテストで数学9点という点数を叩き出して、これはダメだと、ステップゼミナルに通わせ、気付けばもう入試。最初は、明輝に行くと決まっていたのに、北陽に誘われ、正直恐ろしいと覚悟してたり、そこかの合格(笑)

あの時、北陽に誘われていたら、落ちてたかもよかったです。これ、塾長、大本先生の力のおかげです。

親の私も、中学時代、ステップゼミナルに通い、息子も通わせ、あの時から北陽まで、こうなってきた塾長に息子には、こういう指導が良かったよと感謝しています。

他の塾に、行っていたら、たぶん勉強だけして、飽きていたでしょう。時には、厳しく、時には、優しく、勉強以外の事、指導してもらったおかげで、少しは、大人になれた？と思います。

約3年間、本誌にお世話になり、ありがとうございました。塾長、大本先生、そして、おはさん、いつも元気でいて下さい。

また遊びにくるからね(笑)

25年前の今頃は、家庭の事情により高校へ行かなくて、塾長に「高校には行きなさい」と言われた事を懐かしく思い出していました。

本誌にて塾長は特別なお場所であり、塾長や大本先生は、何でも相談できる人でした。娘もステップゼミナルへ通う事となり、勉強はもう頑張るが、社会性を身につけて頂きたいです。無事に志望高へ合格し、おめでとうございます。

母子家庭となり、本誌より塾長へ通わせる事も大変な事ですが、娘に学ぶ機会を手に入れた塾長に感謝の気持ちでいっぱいです。

本誌にありお世話になりました。

そいこれからも、よろしくお願い致します。